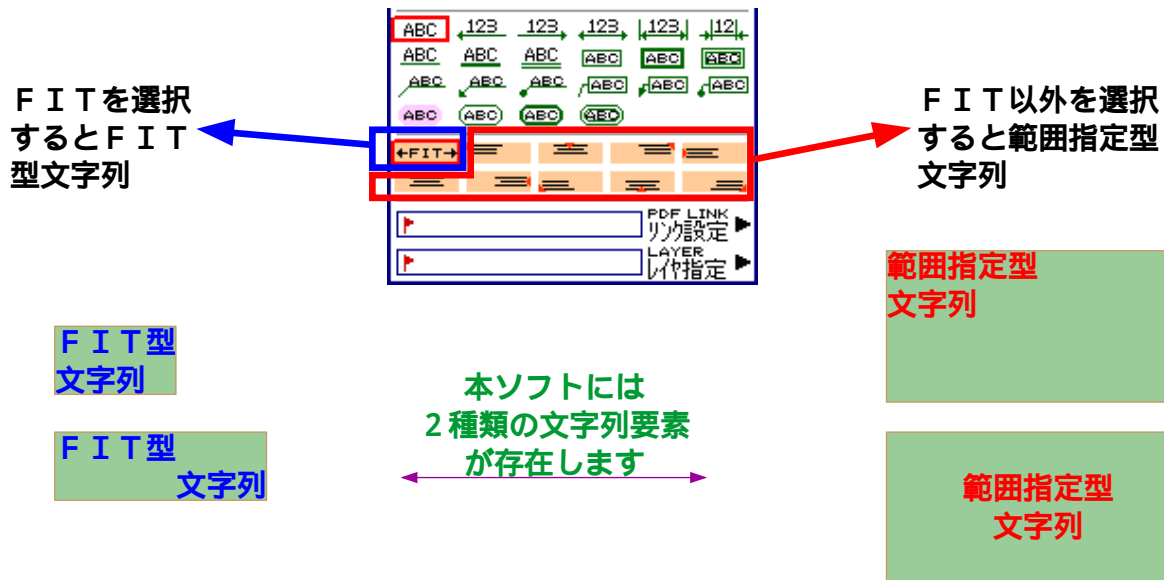


# 文字列要素に対する操作

本ソフトにおける文字列要素は2種類に分類されます。1つはFIT型でもう1つは範囲指定型です。両者の違いは配置プロパティの設定によるもので、いつでも変更する事ができます。



## FIT型文字列について

文字列の文字が存在する領域の外枠が常に要素範囲に一致するように調整されるものです。

- ・要素範囲を変更すると、文字サイズが自動的に変更されます。
- ・文字サイズを変更すると、要素範囲が自動的に変更されます。
- ・文字数や行数を変更すると、要素範囲が自動的に変更されます。

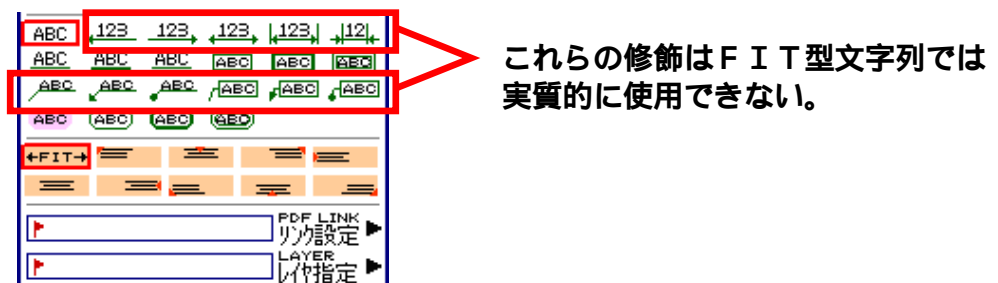
つまり配置的には、最初の文字の座標のみを保持していると考えることができ、扱いがCADの文字列要素に類似しています。

## < FIT型文字列のメリット >

- ・1点の座標指定で、文字を次々に追加入力していく事ができて、入力操作が省力的である。
- ・タブや改行入力を適切な位置に入れることで、画像の回り込みのような処理ができる。
- ・枠などからはみ出さないように、文字幅などの調整が簡単にできる。

## < FIT型文字列のデメリット >

- ・改行を手動で入れなければならない(さもないとページの右側にはみ出してしまう)。
- ・引き出し線や寸法線などの修飾を指定できない。(これらの修飾は文字の範囲と要素の範囲が違う事を利用している。)

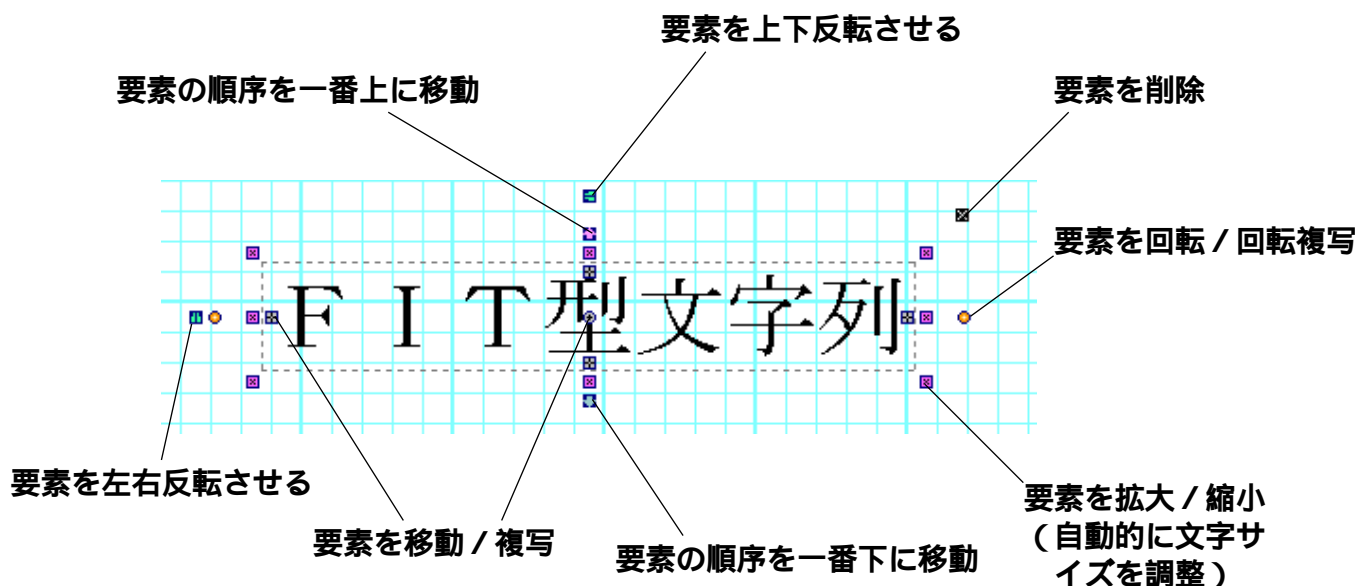


(次ページに続く)

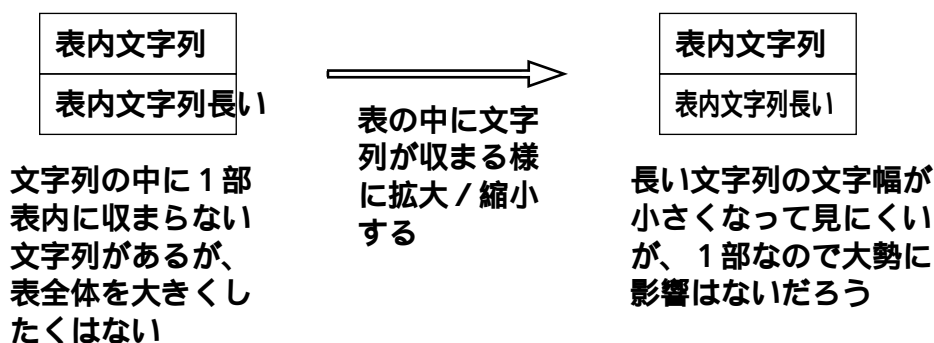
## F I T型文字列の作画方法

- [方法1] 1点左クリックし、「F5」キーを押す  
最も操作の少ない作画方法です。この場合文字サイズ、回転角度などのパラメータは全て前回編集されたプロパティが採用されます。
- [方法2] 2点左クリックし、「F5」キーを押す  
1点目と2点目を対角とする領域により、文字サイズが決定します（全角サイズで指定）。異なる文字サイズを作画していく場合に適しています。
- [方法3] 2点左クリックし、右クリック「FIT角度文字」を選択する。  
1点目から2点目までの角度で、文字列角度が決定します。異なる文字角度で作画していく場合に適しています。
- [方法4] 他アプリケーションでテキストデータをクリップボードにコピー、本ソフトにて「貼り付け」を実行、貼り付けたい位置にマウスカーソルを移動、左クリック。

## F I T型文字列の編集



F I T型文字列に対する拡大/縮小操作は、文字サイズが変わる為、通常は行いませんが、下記のような表内文字列の微調整に使用されます。



(次ページに続く)

## 範囲指定型文字列について

文字列に対する矩形領域と配置方法（左右揃え，上下揃え）を指定するものです。  
OFFICE系で例えると、テキストボックスというのが適当でしょうか。

### <範囲指定型文字列のメリット>

- ・領域の右端で自動的に改行を行ってくれる（明示的に入れることもできる）。
- ・センタリングや右揃え，下揃え配置ができる。
- ・引き出し線や寸法線などの修飾を指定できる。

### <範囲指定型文字列のデメリット>

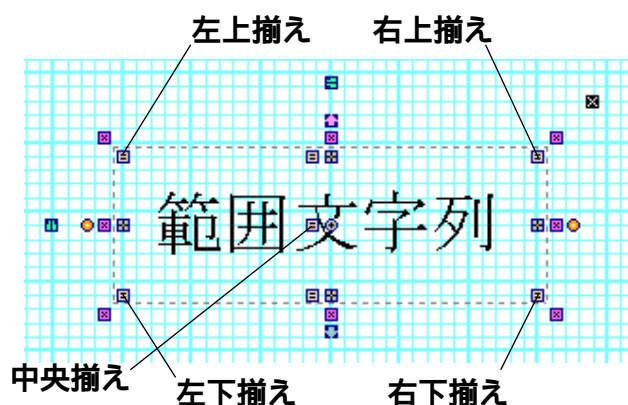
- ・作画には矩形領域の指定が必要。
- ・領域サイズよりも文字列の行数が多くなり、はみ出す分は作画されない。  
このため、行数が増えてくる毎に領域を大きくする操作が必要。
- ・配置が自動化されている為、他の要素との微妙な位置合わせが難しい。

## 範囲指定型文字列の作画方法

- [方法1] 2点左クリックし、右クリック「左上揃文字」を選択する。
- [方法2] 2点左クリックし、右クリック「中央揃文字」を選択する。
- [方法3] 2点左クリックし、右クリック「矢印寸法文字」を選択する。
- [方法4] 2点左クリックし、右クリック「引出寸法文字」を選択する。
- [方法5] 2点左クリックし、右クリック「引出文字列」を選択する。

いずれの場合も操作は同じで、範囲指定型文字列作成後に設定されるプロパティが違うだけです。

## 範囲指定型文字列の編集



上記のような配置変更用のマークがある事以外はFIT型文字列の場合と同じです。

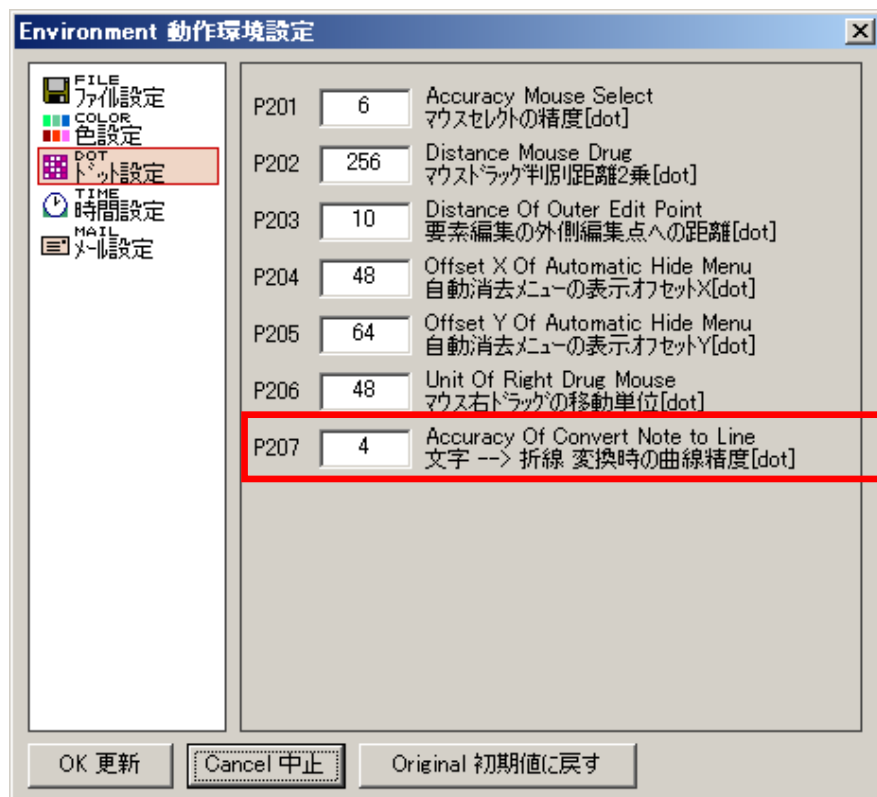
## 折れ線への変換

文字列要素編集集中に、メインメニュー - 「編集メニュー - 」 「折れ線への変換」を実行すると、文字の輪郭を折れ線に変換します。

変換 → 変換

文字の輪郭データは選択されたフォントデータより取得しますが、これには曲線データが含まれる為、作成する折れ線の精度を適切に設定する必要があります。

設定はメインメニュー「オプションメニュー」「動作環境設定」の「ドット設定」にあります。



値を小さくすれば高精度になりますが、後の編集が難しくなります。  
逆に大きくすれば、カクカクとした輪郭になります。

なお、当たり前ですが、文字列を折れ線に変換した場合、文字列の編集は行えません。

## F I T型か？ 範囲指定型か？

文字列を作画する場合に、どちらのタイプを使用するかのガイドライン等はありませんが、私の場合はF I T型を積極的に使用しており、範囲指定型は以下のような場面でのみ使用しています。

- ・表題など、枠がありセンタリングが必要なもの
- ・イメージなどの上に書くコメントなど、背景塗りのマージンが十分に必要なもの
- ・引き出し線や寸法線などの修飾を行う場合

また、ワープロデータの様に文字ばかりのドキュメントに対してもF I T型を使用しています。全ての改行を手動で行う必要がありますが、単語の途中で勝手に改行されると、読む人が読みにくいと考えるからです。（要は見た目の綺麗さよりも読み易さ重視です。）

もし、長文途中に文字列を追加する場合でも、次の行くくらいで早めに改行させ、下の方は編集しない使い方によいと考えます。